

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は大学を卒業後、内科学講座の門を叩きましたが、がんエピジェネティクス研究で活躍されていた同門の先輩の真摯な姿勢に強く感銘を受け、研究者を志しました。

2. 助成研究の内容紹介

多発性骨髄腫は血液の悪性腫瘍で、予後不良な疾患です。私たちはエピジェネティクス薬剤である DOT1L 阻害剤が骨髄腫細胞を抑制するという基礎データを得ており、治療への応用を目指して研究を進めています。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

DOT1L 阻害剤が骨髄腫細胞の増殖を抑制するメカニズムを解明し、臨床応用につなげることを目標としています。またこの薬剤の治療効果を予測するマーカーや、薬剤耐性を克服する方法の発見を目指します。

4. 全国の RFL 関係者に一言

このたびは RFLJ に採択して頂き、誠にありがとうございます。近年、エピジェネティクス薬剤のがんに対する有効性が明らかになってきました。基礎研究を臨床応用につなげるには時間がかかりますが、研究成果を患者さんにフィードバックできるよう、一層努力して参ります。